2017年1月12日
建設通信新聞

ひろば

空き家再生に新たな建築の可能性

「大きな建築設計事務所はより大きな建築を、小さな建築設計事務所はより小さな建築をつくるようになる」。建設関連の資格学校「総合資格」の合格祝賀会に出席した**建築家の伊東豊雄氏**は、建築設計事務所の将来をそう見通した。以前にも増して大規模な建築を設計する組織事務所と、改修やリノベーションを扱うアトリエ事務所の二極化は加速するという。「アトリエ事務所はこれからまた厳しい時代が来る。独立して設計事務所を設立するならかなり覚悟をする必要がある」とも。

次世代の建築家が、活躍する場として注目しているのは空き家再生だ。特に人口が減少する地方都市は大きな可能性を秘めているという。ただ、自身の経験から空き家再生を成功させるには、まず建築家自身がその地域社会の一員になることが不可欠と強調する。「これからは人が集まる場所が重要になる。地方都市で空き家を再生し、自らがオーナーになって生きていく建築家のあり方もあるのではないか」と指摘した。